

# 奈良県の保健師を対象に『保健師の災害対応の強化』研修を実施しました！

日時：2019年11月30日（土）14:00～16:30  
場所：奈良県社会福祉総合センター（橿原市） 3階 第一会議室  
参加者：全国保健師長会奈良県支部の保健師（計15名）  
ファシリテーター：建築学科生1名+教員1名（計2名）

## 今回の見どころ

災害時の保健師の役割は、被災者の健康管理・避難所の防疫対策・要支援者の支援です。摂南大学では、2016年度から『保健師の災害対応の強化』に関する研修を行っています。今回は奈良県で大規模地震が発生し、保健師が避難者の中から避難所生活困難者をピックアップすることになった、と想定しました。ここで避難所生活困難者とは、高齢者・障がい者・妊婦・難病等の方であり、保健師はこれらの人を避難所から病院や福祉避難所へ移動することで、被災者の健康管理を行います。今回は避難所を運営する、ある優秀な自治会長さんから避難者リストを貰った、との現実的でない条件で研修をします。私が事前に練習した際、ピックアップする人の判断に迷い、時間が掛かりました。保健師の皆さんは、どのように判断をし、どれくらいの時間でピックアップできるのでしょうか。

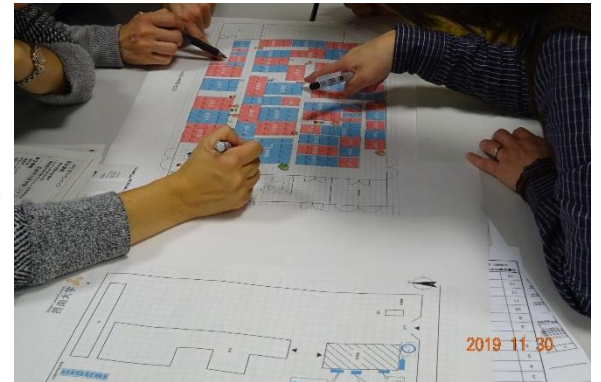
## プログラム実施風景



地震発生時の状況やワークの手順について説明しました。初めての発表で、早口になってしまいました。



橿原市で発生した被害の内、道路の狭さが原因となった道路閉塞等に共感の声が挙がりました。



避難所の図面を見て、その避難所の過密状態から、新たな感染症発生を問題として挙げていました。



避難所生活困難者のリストアップでは、状態が悪く病院に送る避難者を見つけ、即時に決断していました。



参加者からは「判断材料が限られる中で、生活困難者の対応を決めるのは難しい」との意見が挙がりました。



研修の最後には、「避難者リストがあってもピックアップには時間がかかった」との意見が挙がりました。

## プログラムの実施結果

今回の研修を通して、保健師は避難所内の新たな病気の広がり前兆を問題視し、病院に送る緊急性の高い人の対応を即決していました。またある班では「この人は現在の生活環境でどれくらい長く過ごしていただけるか」を基準にして、対応を決めていました。さらに保健師は、避難者の病気だけでなく、衛生面や年齢などの複数の要因から判断しており、これらは保健師ならではの対応だと思いました。一方で、発熱等の病状がある乳幼児や高齢者は、容態の急変があるので判断に迷っていました。保健師からは、「自分の決断に不安がある」との意見が挙がりました。このことから保健師の方でも、災害時の決断は難しいのだと感じました。今回の研修では、避難者リストがあってもピックアップには時間がかかっていました。実災害時にはもっと情報集約が困難となります。よって災害時に私ができることとして、複数の情報から決断しようとする保健師の手助けとなるように、お薬手帳を避難所に持参しようと思います。

今回のプログラム実施にあたり、プログラムに参加して頂いた保健師の皆さんに心より感謝申し上げます。